

令和7年度 第1回運営協議会 記録

令和7年7月11日(金)

10:00～本校会議室にて

出席者

- ・立川 仁典 (横浜市立大学 教授)
- ・田中 良樹 (横浜市立本牧中学校 校長)
- ・佐久間 弘子 (本牧緑ヶ丘町内会 会長)
- ・遠藤 五郎 (本牧緑ヶ丘自治会 会計)
- ・直井 ユカリ (牧陵会 会長)
- ・小島 淳子 (牧陵会)
- ・田中 くみ子 (後援三徳会 理事長)

本校より

- ・坂元(校長) ・上原(副校長) ・高木(教頭) ・松井(進路 G) ・亀井(教務 G)
- ・保田(研究 G) ・服部(生徒 G) ・羽鳥(安全 G) ・田村(広報 G)

記録

- ・牧内(進路 G) ・望月(進路 G)

欠席者

- ・新井 立夫 (文教大学 教授)
- ・増田 宣明 (横浜市立仲尾台中学校 校長)

- ・校長挨拶
- ・各委員自己紹介
- ・職員自己紹介
- ・運営協議会会長選出 立川先生にお願いいただく(拍手で承認)

校長より挨拶ののち、各 G より活動報告

進路 G

- ・昨年度は国公立大学進学数が増加
- ・進路説明会を平日放課後に開催し、多くの保護者が参加
- ・今後も保護者と連携して進路指導を行う予定

教務 G

- ・ ICT 端末の活用をさらに強化
- ・ 多様な教育活動の実施を目指す

研究 G

- ・ SSH 一期生が卒業
- ・ 成果と課題を全職員で共有し、改善へ取り組む

生徒 G

- ・ 生徒主体の行事運営を推進中
- ・ 改善の余地もあり、生徒と共に取り組んでいきたい
- ・ 文化祭アンケートで他者尊重に関する好結果（9 割以上）

安全 G

- ・ 「自由」と「他者尊重」のバランスを生徒に再指導予定
- ・ 学校生活アンケートを全員に実施し、支援体制を整備
- ・ 担任に限らず、職員全体で対応できる体制づくりを強化

広報 G

- ・ 昨年度は人員交代で HP 更新が滞った、改善予定
- ・ 生徒の主体性を外部へ発信する方法を模索中
- ・ 地域行事参加を通じて、社会性や貢献力を育てたい
- ・ 地域の方に生徒へ正直な声を届けてほしい

出席者より質疑など

- ・ 意欲的な高校生がいるので、地域からぜひ声をかけてほしい
- ・ 高校生の「地域」は幅広いが、地元との相互発信が鍵
- ・ 中学と高校では求められるものに違いを感じる
- ・ 教室に入れない生徒に柔軟に対応する必要あり
- ・ 他校の先進的な取り組みを参考にしてほしい

副校長

- ・ 特色部会：SSH、授業改善、進路に関する協議
- ・ 連携部会：地域や牧陵会などとの連携に関する協議
- ・ 委員割り振りは学校側で行う

- ・ 次回は全体会のあと、分会での実施を予定
- ・ 中学校との地域連携に関する助言を希望
- ・ 100 周年では地域との関わりが少なかった

委員 A

- ・ 町内会の祭りはコロナで中断していた
- ・ 学校との連携がなかったのは反省点
- ・ 若手役員が増えてきているが、人手不足は課題

委員 B

- ・ 生徒の居住範囲が広く、地域連携は難しいと感じる
- ・ 地域行事には無理なく参加できる範囲でよい
- ・ 町内会が高齢化が進み、継続が困難なケースも
- ・ 市主導の取り組みに参加する方法もあり
- ・ 地域や学校を愛する経験は、将来の活躍につながる
- ・ 若いうちに地域での体験をぜひしてほしい

校長

- ・ 防災面では生徒との連携より、学校施設の活用が重要
- ・ 協定はあるが現在の教職員はその内容を把握していない
- ・ 保護者目線で生徒活動への意見をほしい
- ・ 数学Ⅱの習熟度差に対応し、2 年生で小集団授業を導入
- ・ 数学が理系進学断念の一因、小集団で対応を図る
- ・ 少人数制で声かけしやすくなったが、優秀層対応が課題
- ・ 数学は 2 年生まで全員が履修するため、対応を 2 年生に設定

委員 C

- ・ 子どもが楽しく通っており、表現力の成長も感じる
- ・ 高校の授業見学は初めてで、校内がきれいで印象良好
- ・ 一足制は素晴らしく、清掃はどうしているかと質問

委員 D

- ・ 100 周年式典に参加できず残念
- ・ 生徒による学校説明は誇りと主体性の表れ
- ・ 地域連携はボランティア活動と同様、社会性を育む

委員 E

- ・進学実績（特に国公立）は大きく伸びた
- ・理系人材の育成や博士課程の拡充は国の方針と一致

委員 F

- ・3年生の自由な雰囲気には驚いた
- ・アメリカの学校のような印象
- ・のびのびと学べる環境が整っていると感じた

校内見学・感想

- ・女子生徒が元気で活気あり
- ・若い教員が熱心に指導
- ・ICT 活用が効果的で、モニタと黒板の併用が良い
- ・スマホ慣れした生徒には学習用との切り分けが必要
- ・清掃は生徒が担当、保護者にも見学機会を設けたい

令和7年度 第2回運営協議会 記録

令和7年12月4日(木)

13:30～応接室にて

委員

- ・立川 仁典 (横浜市立大学 教授)
- ・増田 宣明 (横浜市立仲尾台中学校 校長)
- ・遠藤 五郎 (本牧緑ヶ丘自治会 会計)
- ・直井 ユカリ (牧陵会 会長)

本校より

- ・坂元(校長) ・上原(副校長) ・高木(教頭) ・松井(進路 G) ・亀井(教務 G)
- ・保田(研究 G) ・服部(生徒 G) ・安斎(安全 G) ・田村(広報 G)

記録

- ・望月(進路 G) ・齋藤(進路 G)

欠席者

- ・新井 立夫 (文教大学 教授)
- ・田中 良樹 (横浜市立本牧中学校 校長)
- ・佐久間 弘子 (本牧緑ヶ丘町内会 会長)
- ・小島 淳子 (牧陵会)
- ・田中 くみ子 (後援三徳会 理事長)

校長挨拶：

- ・インフルエンザ流行の中で、修学旅行が無事に終わることを願っている。
- ・授業見学では、前期とは異なる取り組みを見てもらえたらと思っている。
- ・取り組んだことや今後の展望などを各 G リーダーから。
- ・率直な意見や質問をお願いしたい。

運営協議会会長立川先生による司会の議事進行。

令和7年度取組状況(中間報告)について各グループより説明

保田(研究 G)：

- ・具体的には「問の設定」「見通し」「協働」「振り返り」を各授業で実践できるよう取り組んでいる。

- ・各教科で取り組みやすいテーマを選び、そのテーマに沿った授業を展開している。
- ・今後は各教科における「科学的思考力」の共通理解を深めて評価方法を検討していきたい。
- ・また、生徒による授業評価アンケートを一つの材料として、校内評価の課題について検討したい。

委員 A :

達成状況①にある「能力を伸ばしやすいテーマ」とはなにか？

保田 :

- ・これまで、各年度でどの力を育成するか年度初めに決めて全教科で取り組んできた。
- ・SSH4 年目となった今年は、各教科で育成したい力を選択し、それを伸ばせる授業実践に取り組んできた。
- ・観察力、分析力、発信力の中から各教科が設定した課題を延ばせるように取り組んでいく。

服部(生徒 G) :

- ・年間目標として「生徒主体」「他者尊重」を中心に据え、体育祭などの学校行事を滞り無く終えることができた。
- ・事後アンケートの際に「他者尊重に基づいた言動をとることができたか」を生徒に聞き、「できた」という回答が非常に多かったことから、自らの行動が周囲への配慮ができていと捉えている生徒が多い。
- ・今後は校外で初めての合唱コンクールを実施予定。その際にもアンケートを実施して経過をみとっていきたい。

委員 B :

「周りに気遣いをすることができたか」という質問は自己評価か？周囲にそういう気遣いをしてもらえたかどうかは問うていないのか？

服部 :

- ・今回は周囲の様子については質問項目に入れていない。
- ・合唱コンクールでは入れていけたらと思う。

委員 A :

97.5%という数字は非常に高いと思う。例年と比べてどうか？

校長 :

せっかくなら今年度の体育祭の様子を紹介していただきたい。

服部：

- ・体育祭は工事の関係で本校グラウンドを使用できず校外で実施した。
- ・OBの協力もあり会場はY C A Cで行えた。
- ・そのため例年と同様にできない部分もあったが、いつも以上に施設を「借りている」という自覚や意識を持って清掃など頑張ってるなど、生徒たちが「気遣い」という意識を持って実施することができた。
- ・溜まったものを発散する機会でもあるがよく抑えてくれた。自分勝手な振る舞いも無かった。

委員C：

- ・本校まで体育祭の声が聞こえていて、とても盛り上がっている様子を感じた。
- ・子どもたちが主体的に取り組むための工夫は何があるのか？どのように運営したのか？

服部：

- ・ある種目を行う上では安全面を最優先に考慮しつつ、怪我なく実施するためのルールの確認やルールを守るための取り組みを教員側からでなく実行委員から発信してもらうようにした。
- ・教員から指示すると反発されることが多いが、生徒同士でやりとりをしてもらうことで「友人に迷惑をかけない」という意識で取り組めたのでは。

安斎(安全 G)：

- ・生徒の側にも多様な家庭環境があり、ケース会議という場を設定することにし、困りごとを抱えた生徒をどう支援していくかを学校としてサポートできる体制を整えつつある。
- ・SC や SSW に相談に来ている生徒を学年、教育相談コーディネーターなどを通じて、どう学校として支援していくかについても引き続き検討していきたい。

委員C：

入学後に学校に来られなくなってしまった生徒など、様々な事情によって授業を受けられない生徒がいると思うが、具体的にどのようなケアをしているのか？中学校はオンラインや別室対応などがあるが。

安斎：

- ・昨年度も事例があった。
- ・本校でもオンラインによる授業参加を認めるなどして対応を進めている。
- ・生徒の情報共有はケース会議などの場で関係する先生に共有している。

委員 A :

大学でもコロナ禍で心のケアを必要とする学生が増えた気がしている。高校ではどうか？

安齋 :

- ・データはないが、肌感覚で高校でも増えた感覚がある。こちらからの声掛けや支援先へつなげる対応を行うだけで不安の解消につながる生徒は多いのではないかと思う。
- ・人間関係やこれまでできていたことができなくなったなどの躓きに対し、その悩みを解決できるような声掛けをしていく必要がある。

松井(進路 G) :

- ・3年間を通して偏りのないキャリア支援を目標に掲げている。
- ・保護者の進路への関心も強くなっており、家庭が安心できるような進路指導および情報の提供などにも取り組んでいる。保護者向け進路説明会も5月に実施した。
- ・ホームページには載せきれないような合格率の詳細なデータや第一希望の進路実現率なども伝えた。
- ・欠席や遅刻の数と進路実現率に相関関係があるというデータも提示した。
- ・悪天候という条件にもかかわらず役160名の保護者に参加して頂いた。満足してもらえる会になったと感じている。
- ・個別面談については随時実施している。クラスや個人ごとに沿った内容、時間で1-2時間話し続ける生徒や全く面談を希望しない生徒もあり、担任の方できめ細かな対応を進めている。
- ・塾や予備校に通っている生徒が多いが自宅受験の生徒もあり、どのような環境化でも安心して進路実現できる支援を進めていきたい。
- ・ただ、学年が進んでも希望進路がない、決まっても受験までの時間が少ないなど、直前で慌てる生徒がいることは懸念点である。

委員 B :

最近の高校生は大学進学にあたって、「就職を見据えて進学先を決める」なのか「とりあえず行きたい大学」なのか、どちらを選ぶ傾向にあるのか？

松井 :

- ・大学名で選んでいる生徒も多く、その多くは保護者のアドバイスが大きく影響している。
- ・将来の職業を見据えて進路の選定ができることは素晴らしいことだが、具体的な職業まで考えきれない生徒が多いのが現状である。

委員D：

欠席や遅刻が多い生徒と合格率の相関とは？

松井：

- ・欠席や遅刻が多い生徒と少ない生徒との間に、第一志望の合格率で差がついているというデータが出ている。
- ・もちろん外れ値もあるが、結果としてそういう相関関係のあるデータが出ている。
- ・このデータから、遅刻や欠席が多い生活リズムの整わない子は第一志望に受からないことが多い。

委員D：

それは調査書で大学が数字を見ているということなのか？

松井：

- ・大学が合否の判断材料にしているということではなく、あくまで傾向としてそうだとすることで我々がデータを持っている。

委員B：

- ・たとえば高校生に対して、本校卒業生はいろんな職業で活躍しているが、いろんな職業の話をするような機会は求めているのか？
- ・職業に関する情報については生徒からニーズはあるのか？

松井：

- ・昨年から「らいふらりー」を実施し様々な職業観にふれる機会は設けている。
- ・生徒からは良い反応も返ってきているが、それでも直近の有名大学進学を考えてしまう傾向はある。

校長：

- ・1年生は今年度の進路講演会で横浜市立大学の学長から講演をしてもらった。
- ・留学についてなどの話もしてもらい、生徒が興味を持った様子であった。

亀井：

- ・普段の生活で手一杯な生徒も多く、目の前のことに追われているという子も多い。
- ・先々の進路についてゆっくりとらえられない子も多いが、いろんな大人に出会う機会を学校としても引き続き提供していきたい。

田村(広報 G)：

- ・地域や家庭と協働し信頼される学校づくりを推進するという目標のもと、緑高セミナーへの参加などで連携を深める取り組みを進めてきた。
- ・情報発信のもととしてホームページがあったが、更新が滞っていた。
- ・各ページの内容やグループ、部活などの管轄がどこなのかを明確にすることで、担当者ごとにページを更新するやり方で新しい情報の発信ができるのではないかと。
- ・SSH 関係は良く配信できており、引き続き新しい情報を頻繁に発信したい。
- ・各担当の教員が HP を随時編集、更新しやすい環境を整えたい。
- ・保護者への情報発信はプリントだけでは不十分。マチコミメールは効果的で、保護者に確実に情報が伝達できるようになった。
- ・後援三徳会の保護者の方からも「学校の取り組みがよく分かるようになった」というお声をいただくため、引き続き取り組んでいきたい。
- ・保護者への情報共有を密に行うことで親子の会話も進み、三徳会の保護者の方がより学校の取り組みを理解していただけるようになった。
- ・地域のおまつり（大和町、立野町内会）へは今年も参加させていただいた。
- ・熱中症対策で9月半ばに参加させていただいたところ、30名ほどの生徒が参加することができ、地域の方とも交流を積極的に行うことができとても好評であった。
- ・生徒からの感想で「自分の地域に戻ってからもこうした行事に参加していろんな人とのつながりを持ちたい。自分を育ててくれた街へ還元したい」という声もありとても嬉しかった。生徒間での情報共有も行われ、機会があれば友達の地元の行事に参加したいと新たに言ってくれた生徒もいた。
- ・今回のお祭りにはいろんな地域の方が参加しており、他の地域からお声をかけていただく場面もあった。
- ・地域の小学校とも交流があり、付属小からも急遽手伝いのご連絡いただくこともあった。
- ・生徒からも手伝いたいと希望する子が複数出ており、今度参加予定である。
- ・生徒は非常に意欲的であり、こうした取り組みは引き続き行っていきたい。
- ・緑高セミナーは毎年実施しており、今年度はガラス作家の卒業生の方に後援してもらった。
- ・良い機会なため、茶道部とのコラボで、生徒によるガラス茶器でのお点前をしてもらい、好評であった。
- ・課題としては生徒の参加率は低いこと。土日開催だと部活動と重なってしまうなどして出席が難しい生徒が多く、今後検討していきたい。
- ・学校説明会については年3回実施してきたが、1,412組の家庭に参加していただけた。
- ・質問もたくさんいただいた。学校説明会では独自の取り組みとして「校長と生徒の座談会」という形式の説明会を実施している。ただの「説明」ではなく生徒の気持ちが伝わる会に

なっていると思う。「やっていること」だけでなく生徒自身の姿がよく伝わる説明会になっていると思う。

保田：

- ・SSH に関連した地域交流では、放課後の学童施設と交流しシャボン玉の講座をする活動などがあった。
- ・企業、施設への見学や、各種研究を学会見学で学ぶなどした。学会には 20 名ほどの生徒が参加。
- ・課題としては興味のある生徒とそうでない生徒との温度差を感じている。より手厚く指導し、参加できる生徒の数を増やしていきたい。
- ・可能であれば三徳会や牧凌会の皆様のお力もお借りしたい。

委員 B：

大和町や立野町のお祭りに参加されたとのことだったが、本牧山頂公園ハワイアンフェスでも毎年緑高の生徒が参加している。あれも SSH の取り組みなのか？

保田：

SSH の取り組みの一貫として実施しているが、活動母体は部活動の生徒が行っている。

委員 B：

小さい子が取り組みやすい活動をしているなという印象であった。

保田：

今後は学校に小中学生を本校に呼んで実験をしてもらうような活動も検討したいと思っている

委員 C：

- ・お祭りは時期がずれたことで高校生の参加が多く、参加した中学生は圧倒されていたらしい。
- ・テスト前ということもあり本校の中学生は 6 名ほどの参加だった。どのように生徒の参加を促したのか？

田村：

昨年のお祭りの写真を見せたことで具体的にイメージを伝えたりした。

委員 B：

具体的にはどんな活動をお祭りでしたのか？

田村：

当日はお神輿をかつぎ、前日は広報活動や飲み物の配布を手伝うなどした。また、Instagramでも広報活動を行った。

校長：

課題解決についても生徒が積極的に取り組んだと聞いている。

田村：

夜になり暗い道でも案内できるよう、ペットボトルに水を入れたものにスマホライトを照らして道を照らすなどの工夫をした。

委員A：

企画段階からかなり入りこんで参加したということか？

田村：

町内会の方が卒業生なので、かなり積極的に参加させていただいた。

委員D：

マチコミとは何か？

校長：

無料でつかえるメール配信サービスである。来年度から横浜市の公立校で実施しているサービスに移行する予定。

委員C：

新しいシステムでは保護者アンケートなども全て一括で行える。

委員D：

新しいシステムのサービス内容は現在のマチコミではできないのか？

校長：

オプションならできるが、マチコミの場合は有料である。横浜市が実践しているサービスなら無料である。

副校長より

- ・オフィス改善で職員室の机・椅子を一斉に交換し執務スペースを一新した。
- ・打ち合わせスペースや食事場所、生徒との打ち合わせ場所も広くとることができた。
- ・この応接室も机と椅子を新しくすることができた。
- ・8月に実施しまだ数カ月のため、まだ整理している物品もあるが、今後順次進めていきたい。

校長：

これは県立学校が順次実施している事業で、本校は2年目で実施することとなった。わりと早めに実施していただいた。

委員A：

協議事項は以上。

その他連絡事項

副校長：

- ・次回は3月に最終報告をさせていただきたい。
 - ・6時間目に授業見学をする。
 - ・現在、横浜市内にある県立高校を補助的避難所とするという方向で行政で話が進んでいる。
 - ・このたび新体育館になり、本校も市と協定を結ぶことになった。
 - ・平成27年度に本校と町内会で協定書を結んでいると資料が残っているが、今後市との協定が結ばれたらまた情報共有をさせていただきたい。
 - ・体育館の工事が終了したタイミングで順次そうした取組についても滞っていたものについては進めていきたい。
- ・閉会のあいさつ

令和7年度 第3回運営協議会 記録

令和8年3月24日(火)

10:30～被服室にて

委員

- ・立川 仁典 (横浜市立大学 教授)
- ・新井 立夫 (文教大学 教授)
- ・直井 ユカリ (牧陵会 会長)
- ・小島 淳子 (牧陵会)
- ・田中 くみ子 (後援三徳会 理事長)
- ・佐久間 弘子 (本牧緑ヶ丘町内会 会長)

本校より

- ・坂元(校長) ・上原(副校長) ・高木(教頭) ・松井(進路 G) ・亀井(教務 G)
- ・保田(研究 G) ・服部(生徒 G) ・安斎(安全 G) ・田村(広報 G)

記録

- ・内山(進路 G) ・近藤(進路 G)

欠席者

- ・田中 良樹 (横浜市立本牧中学校 校長)
- ・増田 宣明 (横浜市立仲尾台中学校 校長)
- ・遠藤 五郎 (本牧緑ヶ丘自治会 会計)

校長挨拶：

- ・年度末のお忙しい時期にお集まりいただきありがとうございます。
- ・今年度の本校の取り組みについて率直なご意見をいただき、次年度以降に生かしていきたい。

運営協議会会長立川先生による司会の議事進行。

令和7年度取組状況（実施結果）について視点別に各グループより説明

松井(進路 G)はこの後授業があるため、先に説明をする。

3 進路指導・支援

松井(進路 G)：

- ・ 5 月に 3 年生保護者対象の進路説明会を実施した。実際に本校の過去のデータを元に、志望校に合格することは容易ではなく楽観できないことを伝えた。具体的に数字を示したので、内容はよく伝わったと感じた。
- ・ 来月 4 月の入学式後、保護者の方に進路 G から 3 年後の進路実現について簡単に説明する予定。3 年夏になっても進学への意識が曖昧な生徒もいるので、早いうちから情報提供をしていく。
- ・ 今月卒業した 78 期生の現時点の結果をお知らせする。国公立 74、うち東京 2、京都 0、東京科学 7、一橋 7、早稲田 70、慶應 63。上位層が健闘している。
- ・ 新井委員のご意見に対して：随時生徒に実施したガイダンスは効果があった。
- ・ 小島委員のご意見に対して：東京科学大 7 名のうち、3 名が総合型、学校推薦型公募推薦で合格した。探究学習の成果をあえて受験につなげるように言わなくても、本校の生徒はその意義を実感しているのではないか。

委員 A：

- ・ 探究学習をまとめるのが 3 年では遅いのではないか。2 年である程度まとまっていないと間に合わない。探究学習は答えが出るものではない。この感覚を持って大学でも探究を続けて欲しい。

小島 B：

- ・ 探究的な学びは重要。

松井：

- ・ 本校の生徒は試行錯誤して学ぶことを理解している。

委員 A：

- ・ 国は理系人材を増やすことを求めている。緑高としてはどうか。

松井：

- ・ 本校が実施している模試結果も数学が低い。生徒は数学を課題と感じ、苦戦している。今年度から数学Ⅱで学習効果を上げるために少人数学習を始めた

池田：

- ・ 数学科教員の立場から見ていると、本校への高校入試の時点から数学に苦手意識を持っている生徒が多い。そもそも高校入試の数学の問題が難しい。もう少し易しくしてもよいのではないかと思う。

校長：

- ・本校が SSH 校であることは、生徒保護者にかなり浸透している。先日実施した探究成果発表会でも、生徒のもっと追求したい、学んだことを伝えたい、という意欲を感じた。
- ・生徒一人ひとりに個別最適な学習方法を追求していきたい。

1 教育課程・学習指導

保田(研究 G)：

- ・緑の探究と各教科との往還をテーマとしている。グループでは授業力向上委員会を設置し、科学的思考力を深めるために「観察力」「分析力」「発信力」の強化に努めている。それぞれの教科で特に力を入れる「力」を定めて取り組んだ。
- ・緑の探究のまとめとしてポスター発表を行った。ここからは校内での取り組みを外へ向かってどのように発信していくのか考えていき、次の 5 年間の SSH 申請に繋いでいく。

委員 A：

- ・目的とは概念であり、目標は数値などのラインである。ルーブリックなどの評価方法もあるが、発表時にチェックする人手が必要になる。

保田：

- ・ルーブリックは主観を客観に落とし込む手段と考えている。

委員 B：

- ・探究学習に関しては、外部へのチャレンジや外部との交流を進めてはどうか。

保田：

- ・外部へのチャレンジは県内の SSH 校の中では一番多いと聞いている。また、SSH 校である横須賀高校の発表を生徒が見学に行った。近隣の横浜インターナショナルスクールと互いに行き来する交流を継続している。

委員 B：

- ・そのような刺激が生徒を育てるので、継続すると良い。

委員 C：

- ・3 年生は英語でのポスター発表を行っているが、生徒は苦勞するのではないか。

内山：

- ・実は最近のアプリやチャットを使用しているようで日本語から英語にする苦労は無い。それよりも暗記してポスターの前で聴衆に対して発表することに苦労している。結局は日本語か英語か、という点に差は無い。生徒はアイコンタクトや発信力を鍛える必要がある。

委員 B :

- ・緑高生は周囲とのコミュニケーションには苦労していないという印象だ。

保田 :

- ・年々、コミュニケーション力は高くなっていると思う。

2 生徒指導・支援

服部(生徒 G) :

- ・今年度、磯子公会堂において合唱祭を初めて学校全体で実施した。生徒委員の発案で、今年度はパフォーマンスは抜きで合唱の部分のみで競い合った。事後に実施したアンケート結果によると、自分が楽しむだけではなく周囲に配慮できたか、の項目では 9 割以上ができたと答えている。また周囲からの気遣いを感じたか、の項目では 9 割以上が感じた、と答えている。今後も思いやり、気遣いの指導を続けたい。

委員 D :

- ・前回の運営評議委員会に出した意見に対して、早速アンケートに反映して貰い、感謝している。今後も継続をお願いする。

委員 A :

- ・このごろ「敬う」という感覚が薄れているのではないか。A I ではたどりつけない領域である。
- ・自分は神奈川県教員の初任研で生徒指導の分野を担当している。その中で特別支援校で学ぶ生徒に対しては卒業後の自立を目指して指導する、という話をすることがある。やりたいことだけをできるわけではなく、やりたくなくてもしなければならないこともある。合唱祭の本質はうまく歌うこと。歌いたいかどうかではなく、クラスで気持ちを合わせることを学んでほしい。

服部 :

- ・何かに賛成できない気持ちを持ちつつも、周囲とうまくやっていく場面もある。

委員 D :

- ・聖光学院の方に聞いたのだが、聖光の生徒は恵まれた家庭の子どもが多いため、社会的弱者との接点が少ない。そのことに思い至らないので、学校で教えていきたい、と考えているそうだ。良いことだと思った。

校長：

- ・卒業生へのアンケートからは、東日本大震災後の福島関係団体との交流などについて感想を述べている。ただ、社会貢献につながるような仕組みは弱い。

4 地域等との協働

田村：

- ・地域のお祭りへの参加は今年度で2回目なので、運営に関わらせてもらい、SNS での発信等で貢献できたのではと思う。
- ・地域の方々とのいろいろな関わりの中で、この地域の高校生としてどのようにふるまっていくかということを生徒たちに考えてほしい。
- ・他の地域のお祭りへの参加依頼が来るようになった。単に「お祭り楽しいな」ではなく、地域の方々との関わりから様々な職業への理解や子どもたちとのつながりを学んでほしい。SSH の取り組みや座学以外での気づきになってほしい。

委員 E：

- ・地域にとって若い力はとても大切。高校生の参画によって大人も動かされることがある。

委員 F：

- ・昔は地域でラジオ体操をしたりしていた。

田村：

- ・参加生徒たちからは「山手地域だけでなく、自分の地元へ意識が向くようになった」という声も。生徒の気持ちや考えの変化についても HP 等で発信していきたい。

委員 D：

- ・行政が実施するプログラムに参加するような生徒はいるか。

服部：

- ・参加する生徒もいる。市議会議員の社会問題について考えるというような機会を設けたいと思っている。

保田：

- ・SSH としては、「ヨコハマ」を中心に地域と考えている。水の探究から横浜市役所との連携や、企業とのつながりが生まれ、探究のアドバイザーが増えていくきっかけになった。

委員 B：

- ・地域連携に関しても、先生方自身が探究していて素晴らしい。

5 学校管理・学校運営

安齋：

- ・オフィス改善を行って、机、椅子などを取り替えた。収納や食事スペースができたが、まだ整理しきれていない状況がある。次年度安全Gで引き取る。
- ・アゴラについても整理して生徒たちにとって相談等しやすい環境を整えたい。

校長：

- ・事務長が学校内の整備について頑張ってくれているところ。温水便座、体育館跡地の整備等。
- ・生徒の部活動時間の確保、教員の働き方改革のために来年度より車によるグラウンド整備を行う。

安齋：

- ・探究や勉強で忙しい中で部活動に力を入れている生徒が頑張れるように、ということで認めてもらった。

委員 B：

- ・今ある課題に向けた創造があるというのが素晴らしい。
- ・新しいことを始めるには「削減」という決断も必要。そこをうまく校長がマネジメントしていく形が望ましい。

委員 C：

協議事項は以上。

- ・閉会のあいさつ